工業部会研修

工業部会（部会長　藤村　立夫）一行６名は１０月１８日～２０日沖縄県を視察研修しました。視察地は、普天間基地移設候補地の名護市辺野古地区に隣接する宜野座村商工会。同商工会では伊芸商工会長、仲本副会長、玉城福会長、名嘉眞経営指導員から対応していただき、商工会の産業振興策と現状、そして基地施設移転問題に対する地元商工業者の考えと対応等について、約１時間の意見交換を行いました。その後、辺野古地区沿岸部へ移動して現地視察と移設計画の説明を受けました。地域そして県全体が基地との経済関係が深く、共存を図る方法を模索しているとのことでした。又、観光面では阪神タイガースの春季キャンプ地に選ばれてから、観光客は増加傾向にあり、これを機に、物産品の開発や観光客誘致活動等を近隣町村商工会と広域連携事業を展開するようになったお話し等を伺いました。

続いて、恩納村商工会の元商工会青年部長の経営するレストランおきなわ道楽さんを尋ねました。交流会では同商工会の渡嘉敷副会長、金城青年部長、平田事務局長のお三方から、観光振興面や宿泊施設等のお話を中心にご説明していただきました。同村における宿泊許容数は１万人以上、村の人口以上もあり、商工業者の大半は観光関連施設及び宿泊業に関連した事業に従事しているそうです。近年本土からの修学旅行も増加、土産品販売施設として、道の駅を商工会主導で設置した経緯等の説明を受けました。いずれの商工会さんも陽気でほがらかな人柄の方々で、親切丁寧なご対応に大感激いたしました。２泊３日の道中でしたが、大変中身の濃い研修となったことを合わせてご報告いたします。

多重債務
無料相談窓口のご案内

無料
秘密厳守

～多重債務って？～

多重債務の恐ろしさ

多重債務とは
「複数の金融機関から自分の返済能力を超えた借金をしてしまうこと」です。

★多重債務に陥らないために★

①お金を借りる前に
⇒やりたいことや、欲しい物はあるけれど…
「買いたい物は、今どうしても必要なもの？」お金を貯めてからにしませんか？
・必要可能な範囲で、買い物をしたりお金を借りよう。
・貯金箱などをつけて、収入と支出を把握しよう。

②お金を借りるときに注意すること
⇒「必要なときに、必要な額だけ、返済計画を立てて」借りるのが基本です。
消費貸借契約（契約）は、「お金を借りる権利」と同時に「返済する義務」も生まれます。

（契約時のチェックポイント）
・契約書の内容でわからないところは納得いくまで聞こう
・無理のない返済計画を立てよう
・契約書写しは必ず保管しよう

③お金を借りた後は
⇒ 借金を返すための確実な収入はしっかり
⇒ 常に「収支バランス」をチェックしましょう

（借りた後のチェックポイント）
・返済期限に遅れない
・領収書、利用明細書を保管する

④多重債務に陥ったら
⇒ 債務整理の4つの方法を検討しよう
・任意整理　・特定調停　・個人再生　・自己破産

（債務整理のチェックポイント）
・返済が苦しくなったら一人で悩まず早めに相談しよう

東北財務局　青森財務事務所　理財課
青森市新町2丁目4－25　青森合同庁舎3階
平日（土・日・祝祭日、年末年始除く）8:30～17:15
017－774－6488

商業部会研修

商業部会（部会長　高杉　義文）は１０月２３日～２４日、山形県鶴岡市羽黒町の庄内映画村視察研修を実施いたしました。初日は八戸自動車道・東北自動車道・山形自動車道を利用し山形自動車道の庄内あさひインターの近くでの昼食となりました。山形ポークのポスターが貼ってあり、近年山形県でブランド化し販売促進中とのことでした。「昔は、さんのへ豚が全国表彰を受け、農家の方々が生きがいを感じ生活していた、ぜひさんのへ豚を復活してほしい」など会話をしながら食事をした。庄内映画村は大型バスがすれちがえない山のふもとにあり、膨大な面積のなかにセットがあり江戸時代に戻ったような感覚になりました。「映画村ができたことにより雇用が進み、特産物・お土産品の販売ができるので大変助かっている
冬季間は休業するので通年営業がこれからの課題です。」と話をしていた。

二日目は鳥海山の道の駅を視察、観光バスが数台止まり５０台ぐらいの駐車場は、ほぼ満車状態で特産物を買い求めて会計に並んでいました。
秋田市を経て「道の駅ふたついで」は、きみまち阪の産直所の駐車場も満車状態テニスコート、史資料館、子供の遊び場もありにぎわっていた。大館市、鹿角市、二戸市を経由し三戸に戻ってきました。各地域の施設を視察し移動中の車での会話が有意義な研修でした。

サービス部会研修

商工会サービス業部会（部会長　似鳥　一男）一行９名は１１月１４日～１１月１５日の二日間、浅草の商店街・東京都の築地・むらからまちから館等を視察研修致しました。浅草の商店街では通路に隙間がない程の人で賑わい。人形焼き・雷おこしなど昔ながらの「和」の商品と流行に合わせアレンジした商品も多々あり歴史と革新が融合しバランスの良さを感じました。築地場内では、三輪自動車が縦横無尽に走り周り、場外でも朝から多くの買い物客と観光客で賑わい、全国各地の食料品が集まった日本の台所といった様相を見せていました。むらからまちから館では、昔ながらのふるさとの技術が活きた品々が所せましと販売されており、１日の来館者約3,000人。日本唯一の地域総合専門館であること等の説明を受け、研修参加者メンバーは真剣に聞き入っておりました。活気のある商店街のアイディア商品や接客を目にし学ぶ事の多い研修となりました。